

福岡高等技術専門校
福岡人材開発センター
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	8
施設所管課	財産活用課

令和2年7月

✿福岡県✿

福岡高等技術専門校福岡人材開発センター 個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	福岡高等技術専門校福岡人材開発センター		
所 管	総務部財産活用課		
整 理 番 号	8	竣 工 年	平成 22 年
所 在 地	福岡市東区千早 5 丁目 3 - 1		
敷 地 面 積 (m ²)	1,966.58	建 築 面 積 (m ²)	1,067.25
主 構 造	R C	延 床 面 積 (m ²)	2,795.20
主 要 建 築 物	事務所・実習場		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	事務所・実習場				
棟 番 ・ 枝 番	39	-	1	竣 工 年 度	平成 22 年
建 築 面 積 (m ²)	1,067.25		延 床 面 積 (m ²)	2,795.20	
構 造 ・ 階 数	R C 造 地上 5 階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
5F	400.00	特別教室、教室			
4F	400.00	パソコン教室			
3F	400.00	事務室、教室			
2F	533.12	事務室、事務用倉庫			
1F	1,062.08	実習場、検定用倉庫			

福岡高等技術専門校福岡人材開発センターは平成 22 年に竣工しました。当センターは、地域の需要に即応した技能労働者の要請、技能の維持向上のための総合サービスを行うとともに、技能検定の振興を図るための業務を行っています。

(3) 計画期間

計画期間は令和 8 年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築10年で目標耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造による一般的な建物であり、築10年と比較的新しい建物であるため、計画的な改修は予定していませんが、必要に応じて、施設の安全や建築物としての必要な機能を維持するための修繕を実施していきます。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

建物としては良好な状態です。施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っています。

(2) 建物全体の現存率

現存率算定表

施設名称	福岡高等技術専門学校福岡人材開発センター		建物名称	事務所・実習場			
所在地	福岡市東区千早5丁目3-1		棟番・枝番	45	-	1	
建築年	平成22年	建築面積	1,067.25 m ²	現存率	98.0	想定耐用年数	7年
構造・階数	RC 5	延面積	2,795.20 m ²			65年	
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	7	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水(B-2)	7	100.0	20.00	
	外壁	20	塗装	7	100.0	20.00	
	小計					40.00	
電気設備	受変電設備	10		7	90.0	9.00	
	小計					9.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		7	90.0	9.00	
	小計					9.00	
合計						98.00	

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、福岡高等技術専門学校福岡人材開発センターの現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水 (B-2)	100.0	防水層からの漏水 又はその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			経年 (新設若しくは改修後)	経年 10 年未満
外壁	塗装	100.0	外壁のはく落、浮き、ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年未満
内壁	石こうボードE Pタイル貼り	100.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	吸音板	80.0		
床	タイル貼り、ビニールシート張り	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 5 年以上
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年 (新設後更新後)	-
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	80.0	経年 (新設後更新後)	経年 5 年以上

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	—	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	—	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2010	10	新	-	-	-	-	65 年

※平成19年度耐震診断結果より

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、福岡高等技術専門校福岡人材開発センターの目標耐用年数を原則どおり65年（残年数を55年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築10年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は55年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

また、改修を行う予定もありませんが、必要に応じて、施設の安全や建築物としての機能を維持するための修繕を実施していきます。

(2) 対策の平準化について

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、取組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

(百万円)					
区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他		0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※上記は実際の前算や事業費等とは異なります。